

世界のひのき舞台へ

ウェイト部

岡本孝義君(法四)

世界ジュニア出場 ロシア

創部三年目の快挙にわく！

創部三年目での快挙！本学ウェイトトレーニング部の岡本孝義君(法四年)が九月十一日からロシアで開催された「世界ジュニアパワーリフティング選手権大会」へ出場しました。本学学生が世界大会へ出場したことは、過去をさかのぼってもたった二度あるだけ。久々のビッグニュースに学校全体が大いにわいたのです。

同部を立ち上げ、部長としてここまで牽引してきた岡本君。その競技者としての実力のみならず、強力なリーダーシップも賞賛されるべきものでしょう。そして迎えた試合当日(十三日)、世界の強豪と渡り合い見事十一位という成績を収めました。「体調が万全でなく、結果に悔いが残る。しかし、日本人の技術は世界一という確信ができた。来年は上位入賞を目標に頑張ります。」



世界への挑戦 渾身の力でバーベルを上げる

すでに世界レベルの実感をその掌中に挿んだようです。(六面に体験記掲載)

Contents 69

キャンパスニュース	
初の出前講義	2
オフキャンパスセミナー	
学会学術講演会	
協定調印	3
観研部 講習会	
夏季集中講義を学外開放	
前期学位記授与式	
就職課より	
質問にお答えします	4
学生のひろば	
岡本君体験記	6
クラブめぐり ワンゲル部	
留学生学外研修	7
勇気を出して、真心を込めて	
キャンパスニュース	
イニシアチブ	
開店1周年を迎えて	8
インターンシップに参加して	
お知らせ	
単位の追加登録が可能に	8
第2回献血	
学生懸賞論文の募集	

知っていますか？

- 1) 集団生活において快適な講義について
教育環境を維持するため、学生と教員の信頼関係に基づいて、最低限のマナーが求められる。あくまでも学生の理解と主体性を尊重して推進する。
 - 2) 「マナー」は、「モラル」「モチベーション」の自覚・意識に基づいて表現される行為であり、推進事項を下記のようにまとめた。
- 喫煙について
所定場所での喫煙。歩行喫煙はしない
吸殻のポイ捨てをしない。吸殻は所定の場所へ
 - 自転車・自動二輪車について
所定場所への駐輪・整頓
二人乗りの禁止
 - 遅刻、途中の無断退席をしない
私語を慎み、携帯電話の電源をオフに
飲食・帽子着用(特別な場合を除き)の禁止

(五面に詳細)

どうなった? 「3つのM運動」

提唱から一年 その経過を追う

「3つのM運動」って?

学報六十五号(平成十三年九月号)でお伝えした「3つのM運動」。「3つのM」とはモラル・マナー・モチベーションの頭文字からとったもので、「目的意識をもつこと」「礼儀をわきまえる姿勢を涵養すること」を通じて、「実力と社会的マナーを兼ね備えた人材を育成すること」を狙いとする本学の基本姿勢の確立を」という趣旨のもと商学部で提唱された取り組みのこと。学部や職員、学生側の取り組みが最近にわかに活発化しているようです。提案から一年、「3つのM運動」のこれまでとこれからを追ってみました。

初の出前講義

世界を歩いてみよう

広島 日彰館高校で

本校の教員が高校へ出向いて講義を行う「出前講義」が、広島の日彰館高校で七月十六日（火）初めて行われました。

講師を務めたのは商学部の富永悦夫教授。「世界を歩いてみよう」と題して講義が行われました。今回、日彰館高校の生徒と歩いた地域は、今年のワールドカップで優勝をさらったブラジル。この国に八年間暮らした経験があるという富永教授は、サッカーはもちろん、国家や国旗、増嶋と化した複雑な人種構成、日本からの移民のことなどに触れながら、ブラジルの国民性や習慣などについて講義を行いました。「自分の



約40名の生徒が熱心に話を聞いた

六月二十五日（火）八三二教室において、学会主催の学術講演会が、英国ウエストミンスター大学のグラハム・ミラー先生を迎えて開催されました。（「観光産業における共同責任及び社会的責任」）観光産業において生じる「責任」について、様々な立場から考察が行われるという内容で、通訳を介しての講演にもかかわらず言葉上のハンディを感じさせない示唆に富んだ内容でした。距離を大きく隔てた日本とイギリス。風土や習慣は違えども、共通したヒントを見いだすことができたのではないのでしょうか。

なお今回の講演会は、一般の方にも聴講いただきました。（財）岡山県観光連盟の事務局長 吉松裕子さんは「学問として観光をとらえることに新鮮さを感じた。観光資源はわたしたちの財産。それらを守りながら、同時に訪問者に楽しんでいただく」と

学会学術講演会

初心を再認識

初の学外開放

国と他の国の違いを認識し、その違いを尊重できる人が国際人。皆さんのような若い時期に、日本の文化・歴史についてもっと理解を深めて欲しい」と生徒に語りかけていました。

本学ではこの他、さまざまな内容の出前講義を用意しています。詳細は教務課までお問合せください。

非常に好評

オフキャンパスセミナー

社会総合研究所

社会総合研究所は、非常に好評を博している「オフキャンパスセミナー」（出前講義）を有効活用し、社会科学分野だけでなく全教員の叡知を広く社会に知っていただくため、本学教員が地域の団体や企業等のニーズに応じて現地向向き、専門分野の講義を行っています。



講演する鳥越商学部教授

喜んでいただき、また受講生の方からいろいろな質問も出て、意義有るキャッチボールも行っていきます。

「オフキャンパスセミナー」は、年度当初に本学教員全員に登録希望を募り、登録された教員氏名・専門・テーマ（ホームページ上でも掲示）を岡山県内の公共一般団体、企業等へ三十名以上の聴講生が見込める場合という条件のもとで、県内の商工会議所、

公民館等へメニュー一覧表を送付すると同時にマスコミ関係にも報道していただいています。

ちなみに実施状況は、十三年度は十名の先生が登録され十一回出講、十四年度は十六名の先生が登録され八月末日までに三回出講、現在予約が三講義はいつています。

今後「オフキャンパスセミナー」をより一層充実したセミナーにするには、本学教員が研究所の所員であるという事実の下に全員が登録されることを希望しています。

全教員のご協力をいただくことにより多彩なメニューが揃い、地域の方々のニーズに即応できるとともに、本学教員の叡知を社会に知っていただくチャンスでもあると考えています。



▶右からミラー先生、通訳の真井講師

Campus news 5

観研部 講習会 ボクにも できたよ

小学生から大人まで 大山模型づくりチャレンジ!

大学の観光研究部が、小学生から大人まで幅広い年齢層を対象として、「大山の模型づくり講習会」を開催しました。

当日（八月二十四日）は夏休みというこ
ともあり、親子連れを中心に約三十名ほど
が参加。部員の指導を受けながら等高線に
そって厚紙を切り、丁寧にのりで張り合わ
せて、模型を完成させていきます。二時間



お父さんと一緒だ〜い!

の講習時間内で完成させることは、なかなか難しいようですが、「家に戻ってから是非続けて、作り上げる喜びを体験してほしい」と顧問の野本教授。

部員のみなさんが参加者とコミュニケーションを取
りながら生
き生きと指
導する姿
は、いつに
も増したた
のもしくつ
つりまし
た。

Campus news 4

未永い友好を誓い 江西省師範大学と覚書締結 保護者との交流会も

8月27日（火）から9月1日（日）にかけて、井尻昭夫学長らは中国の南昌市にある江西省師範大学との「覚書」の調印などのため、現地を訪れました。



相互交流を約束

八月二十九日（木）

江西省師範大学で開催された調印式では大学の井尻学長と、師範大学の李賢瑜校長が調印文書に署名、固く握手を交わして今後の学生の相互交流を確認しました。

今回の調印により、一年間の交換留学が約束され、来年四月から実施される予定になっています。昨年締結された友好提携の協定が具体化されたものとなりました。

保護者との交流

故郷から遠く離れ、日本で暮らす子を思う両親。そんな現地の保護者の方にも日本での暮らし振りなどを是非知っていただきたいと、今回初めて留学生の保護



▶我が子を想う気持ちはどこも同じ。ビデオレターを撮影

者との交流会を開催しました。

あらかじめ撮影してあった留学生からご両親に宛てたビデオレターが流されると、どの保護者の方も感激した面持ちで、我が子の様子をなつかしく見守っていました。最後にはそれぞれの保護者の方が我が子に宛てたビデオレターを撮影。子を想う親の心情は日本も中国も関係ないことが、ことさらのように深く感じられたのでした。

Campus news 6

夏季集中講義 学外へ開放 金融工学入門など

金融工学入門など



▶五名の社会人が受講しました

受講しました。

いずれも夏季休業中の集中講義として開講されたもので、内容の専門性・社会性から、一般実務に携る方やその分野に深い関心と知識を有している方にも開放していくというもの。今回金融工学入門

本学では、今回初めて学生対象の講義を学外へ開放。対象となった「金融工学入門」「福祉情報論」の二つの講義では意欲溢れる社会人の方々が、学生たちと交じって熱心に

Campus news 7

十八名が巣立つ 前期学位記授与式

九月二十日（金）前期学位記授与式が本館小会議室で挙行政され、十八名が本学を卒業いたしました。

- 学部
- 商学科……………八名
- 産業経営学科……………一名
- 経済学科……………三名
- 大学院
- 商学研究科……………三名
- 法学研究科……………二名
- 経済学研究科……………一名



には金融機関等から四名、福祉情報論は一名の受講者がありました。

また講義とは別に社会人受講生と教員が意見交換を行う場が設けられるなど、本学にとっても大変意義深い試みとなりました。「学んだこと、考えたことを職場に帰りフィールドバックを行い、業務に役立てたい」「金融工学の分野は、今後一層のニーズが高まることは間違いな
いと感じた」などの、意見が聞かれました。

質問にお答えします

就職課

就職活動の流れ

(3年)		就職ガイダンススタート 就職情報サイトに登録する	
6月	自己分析・情報収集期	自分を知るために自己分析に取り組み始める	
8月		新聞で時事用語のチェックを始める (経済新聞を読むことをおすすめ)	
9月		就職活動ノート作成の準備	
10月		就職課で企業情報やOB・OG情報を収集する	
11月		OB・OG訪問開始 性格・適性模擬試験の受験 就職情報誌が届き始める	
12月		資料請求開始 エントリーシート、履歴書の作成準備 業界・企業選びのポイントを整理 Uターン希望者は地元企業へのアプローチ開始	
1月		自己PRの内容や志望動機をまとめておく エントリーシートや履歴書の作成 リクルートスーツの購入を終えておく	
2月		活動実行期	セミナー、説明会の申込をする 業界・企業を徐々に絞り込む
3月			セミナー参加後、順次、会社訪問・面接に進む 採用試験(筆記など)を受ける
4月			業界・企業選びのポイントを再チェック セミナー参加のピーク
(4年)		面接(個人・グループディスカッション)などのピーク (2次 最終面接へと進む)	
5月	内定ゲット期	内定獲得のピーク 以後、順次内定が出る (企業の求人状況等により内定が出る時期は異なります)	
6月		内定後自己チェック期	重複内定者は企業を選択する 内定誓約書を交わす
7月			10月
8月	3月	大学卒業	
9月			

質問1
就職活動の流れについて

次のような流れで就職活動を進めていきますが、時期などは一応の目安です。

質問2
今から、就職に向けて何をしたらよいでしょうか？

就職に向けて、「最低限これだけはやって

依然として厳しさが続く就職状況では、低学年次からの就職指導が重要と考え、今年度から一、二年生を対象とした就職・進路ガイダンスを実施しています。
このガイダンスは、就職や進路について考えてもらうことはもちろんですが、早くから自分の将来について考え、目標をもってもらうことが目的です。ここでは、五月十八日(土)に行われた二年生対象のガイダンスでの、就職や進路についてのアンケート集計の中から、質問の多かった事項についてお答えします。参考にしてみてください。

もらいたい！」ことです。
単位の修得

三年生までの間にできる限りの単位を修得して、余裕を持った就職活動ができるよう準備しておきましょう。
文章能力を育てる

日記や手紙などを書いて、簡潔でわかりやすい文章を書く力を養っておきましょう。自己分析する時や履歴書に自己PR、志望動機など記入する時、また小論文を書く時にきつと役立ちます。
将来像を描く

自分はどうな生き方をしたいのか、考えてみましょう。

仕事・プライベートをあわせて、自分の十年後二十年後の将来像を思い描いてください。最初は漠然としたものでもかまいません。将来像を描くために、どのような知識が必要かわかってくるはず。それを調べるところから、社会や仕事に関するの自覚が生まれてくるのです。そして、進むべき道がみえてくるでしょう。何かに取り組み

就職試験の一般的な面接では「学生時代に力を入れたこと」、また「それにどう取り組みどのような成果をあげたか」、そして「その結果得たこと、それをどのように活かしたいのか」など質問されます。これは、大学三年間でやってきたことが評価されるということです。

大学生という立場で何かに一生懸命取り組んでください。就職のためだけでなく、延い

では学生生活を有意義なものにしてください。

経済を知る

新聞・雑誌・インターネットなどで経済に関する情報を収集しましょう。

最初は読みづらいたと思いますが、読む訓練をして、そして得た情報を自分なりに加工する努力をしておきましょう。

インターンシップへ

インターンシップ(就業体験)などへ参加してみましょ。

人の輪を

同年齢だけでなく、目上の人とも話し人の輪を広げましょ。折衝の仕方、言葉遣いなども覚えていけるはず。

質問3

資格や検定を取得していたら就職に有利でしょうか？

一概には言えませんが、資格や検定は持っていないより持っていた方が有利でしょう。「資格がある」ということは、第三者への証明にもなりますし、やる気や努力が認められ、自分にとって知識を深めたり、自信をつけることにもなります。

しかし、資格があるからといってそれがすぐに就職に結び付くわけではありません。大切なのは、自分の目的にあった資格であるかどうか、自分の適性や能力を活かす資格であるかどうかということになります。

さらに、その資格を自分の将来・仕事にどう活かすのか、どう活かしたいのか自分なりの目標を持って取得することが大切です。早い時期に自分なりの将来計画を立て、必要ならばその資格を三年生までの間に取得しましょう。

ただし、パソコンはどんな仕事に就くにしても必要です。ワードやエクセルくらいは使いこなせるようにしておきましょう。

商学部での取り組みは？

大城商学部長にきく

提案から一年が経過しましたが？

「三つのM」運動は商学部教育の要諦として位置づけられるものと考えています。バブル経済の崩壊後青年の社会性や道徳性に関わる教育的配慮への議論が高まっており、商学部ではそうした教育的役割がとりわけ大きく評価されなければなりません。「喫煙問題」をはじめとして「迷惑行為防止問題」等、いくつかの要点を押さえることを通じ、社会的受容性を担保する教育的枠組が、大学において設けられていることを広く知っていただきたいと思えます。また、こうした取り組みは社会科学系大学で学ぶ学生全てに影響を与えることが望ましいですね。

具体的取り組みは？

「存知の通り、主として「三つのM検討分科会」(代表 竹内哲郎教授)において検討が行われてきました。「喫煙ルール」(案)の明確化が図られ、教授会でも計画推進会議申し合わせ事項(一面参照)として承認が得られました。今日ほど喫煙問題に関して世論が敏感でなかったためか、現実的盛りあがりにはまだはなかなかつながりませんでした。

そこで、授業中のマナーなど効果的授業の確保に関わる学習環境向上の問題に焦点をあてて運動を進めてきました。このことについて竹内教授からさまざまな場を利用し、再三にわたって具体的提言が示され、大方の教員に「草の根運動」的支援が訴えられてきました。

今後、必要となるものは？

まず、この運動を全学的体制で展開することです。目下アンケート調査を通じて全学的運動の展開に関わる意見を集めようとしています。やはり多様な意見の投げかけの中で、何がしかの全学的対応は必要となります。

そのためには大学環境の大きな変化に対応した、新

できることから始めてみませんか？ 3つのM運動

しい「大学としての役割」に意が尽くされなければなりません。社会的マナーに関わる教育的配慮というだけでなく、大学の存立をかけた、本学教育の真価を訴える本学独自の展開が考えられるものでなければなりません。

また、各々の「M」についてより深い理解が必要となります。そのこと無しには「三つのM」運動の意義を理解することはできません。

それらについて簡単に

お話いただけますか？

まず「モラル」(道徳)についてですが、その前に「倫理」について少し考えなければなりません。倫理は「善や正義」を問うものです。ここで

わたしたちが問題にするのは、他との関わりあいの中で生まれる倫理、つまり組織や社会の利益を想定したものです。わたしたちがそれら社会倫理を基に、特に重視する行動原理としていくつかを明示し、その実践が道徳(モラル)となるわけです。善や正義の絶対的規定は困難ですが、相対的に本学の掲げる教育理念や目標、使命をもって明確化する

ことは可能です。そして現実には実践に移した場合、わたしたちの行動は社会的・組織的に望ましいとされる行動様式により規定されます。それが「マナー」(マナー)です。したがって、それら望まれる行動様式群を身につけることができれば、社会的に認められることになるのです。商大生、とりわけ商学部で学ぶ者なら、「ビジネス界における「善」や「正義」の判断基準を身につけていることが望ましく、それに向けた努力に努めていた

きたい。

一例を挙げてみましょう。芸術大学の学生がサイケデリックな身なりをしていても

なんなら将来に不都合はありません。しかし、商大生であれば顧客や消費者から感じよく受け止められる工夫を身につけることが優先されます。ビジネス界は芸術のように自己主張を中心とする世界とは明らかに異なった環境にあるのです。

最後は「モーション」(動機付け)です。

これは非常に難しいことと受け止められがちですが、それは先ほどの「モラル」や「マナー」に迷いがあるからです。その教育の「善」や「正義」とするところが明確であれば、大学全体の進むべき方向もおのずと定まってくるわけです。

つまりこの運動は本学の未来にも大きく関わっているのです。

そこです。実は、商科大学の新しい設計と大きな関係を有しているのです。この点に対する認識はまだ十分に育まれていないように感じられます。

事務サイドでは？

事務サイドでは、主に学生に接する機会が多い部署がマナーに関する啓発を行うてきました。

学生部では喫煙マナーなどを呼びかける掲示を以前から行っていましたが、今年度からより視覚的で学生に訴えるものをと、本学の姉妹校「専門学校デジタル・メディアアカレッジ岡山」の学生にポスターの作成を依頼。数種類のカラー啓発ポスターを掲示しました。「後期にはポスターを増やしこの運動を訴えていくつもりです」と学生部村上参与。

また教務部では今年の七月から始業前のごみ拾い開始。「われわれの姿を見て学生諸君が自らの行動を振り返ってもらえれば」と話すのは教務部の石野次長。

「ゴミはここに入れてくださいね！」昼休み、外で昼食をとる学生にほうきを片手に話しかけるのは法人事務局の大石橋参与。「学校は自分の家と同じようなもの。

玄関先にゴミが落ちていたら拾うのと同じことです」

職員研修会で討論

九月十一日(水)の職員研修会ではこの「三つのM運動」がテーマに。

六組の班に別れ約二時間半にわたって行われました。討論会では、現状の認識、それに対する対策・提案など、活発な議論が展開されました。議論の中心が上がったのは学生のマナー。「マナーは学生個人に負うところが大きいですが、学校の施設などハード面の配慮が欠けるとマナー悪化を助長することになってしまつてはいませんか」などの意見も。「教員・職員、そして学生の三位が一体となった全学的体制作りが必要」との共通した認識が聞かれました。また、職員自身のマナーやモチベーションについても改めて見つめなおす機会となったのでした。

一年を経過して

運動の提唱から一年が経過したとはいえ、「三つのM運動」まだまだ全学的な運動とは至っていません。しかし、大城商学部長が言う「草の根的運動」は、さまざまな人に支えられながら途切れることなく続いていることが実感されました。また学生委員会では全学的取り組みを目指して検討されたとのニュースも入ってきています。

先の職員討論会では「学生の皆さんにも積極的に参加して欲しい」との意見が出されました。やはり学生抜きでこの運動は成立しないとの、共通した認識を感じました。

大城商学部長は「最初は多くを望まない。小さな事から運動を広げていきたい」と語られています。教職員そして学生のみならず、できることから始めてみませんか！(〇〇)



そのためには大学環境の大きな変化に対応した、新

そのためには大学環境の大きな変化に対応した、新

そのためには大学環境の大きな変化に対応した、新

そのためには大学環境の大きな変化に対応した、新

世界に挑戦して

世界ジュニア体験記

九月九日／一日目
いよいよ出発の日。四時に車にて伊丹空港へむけ岡山を出発。

その後飛行機にて伊丹八時〜成田九時着
成田十二時〜モスクワ十七時（時差五時間を含む、つまり十時間）空港に二十時頃まで荷物検査のため待機。

ホテルまで約一時間かけてバスで移動。
九月十日／二日目

この日は移動日。
モスクワ〜ソチへ飛行機で移動（約三時間）
九月十一日／三日目

大会初日です。この日は女子の重量級以外の試合と開会式が行われた。私自身も同じ日本選手団のセコンドをしていたためかなり忙しい一日でした。
九月十二日／四日目

大会二日目。この日は女子の重量級と男子の軽量級の試合が行われた。この日は日本人選手が五人も出場するため、セコンドの武市（国四）はかなりてんでこ舞いだった。明日のセコンド大丈夫かな？
九月十三日／五日目

大会三日目。とつとつ来ちゃいました。試合ですよ。めっちゃ緊張です。検査からコスチュームチェックまで何から何まで日本と違って少し戸惑っちゃいました。



岡本君(右)とセコンドの武市君(左) 手にしているのは公式認定書

一番の違うが世界大会はパ
ンツまで規定があることですかね（プリーフしか認められてない）。



試合前に入念な準備

さあ試合です。体調はばっちり!? ではなく、かなりまずい食事と連日のセコンド疲れ、昼と夜の激しい気温差、試合対してのプレッシャー!? から出発前にくらべて体重が四キロも減ってしまい、かなりパワーダウンしていました。どんな状況でもできる限りの事はしようと思いましたが、試合結果も自己ベストとは程遠いものがあり、結果トータル十一位と無残な結果に終わりました。いつもの記録が出ていれば少なくともベスト8には入れただけに悔いは残ります。試合で色々とお父さんマンスを求られたので試合後は外人選手にかなりユニフォーム交換を求められモチモチで

九月十四日／六日目

大会四日目。この日は日本人選手が一人だけしか出場しなかったので早めに試合が終わわり、その後ソチで一番高い山へ行きました。この山にある岩には何やら神話があるそう。ある神様が人に火を与えてくれたそう。それを見た他の神様たちが激怒し、その神様をこの山の岩に張り付けにした。そして人は火を手にする事ができたのだ。というものです。この岩にしろ、大きな山にしろ、黒海にしろソチの自然はとて

九月十五日／七日目

大会最終日です。この日はいよいよ世界Jrも終わります。とても寂しいです。試合のほうは重量級の試合でとても人の強さとは思えない強さでした。スクワットで三七〇キロとか普通に挙げちゃうんですよ。全体会終了後、ホテルでお別れパーティーがあり、そこで私はいかに日本人って

格好で参加し、写真尽くめの刑にあいました。私は数日前から熱があり絶対にお酒を飲まないよう、武市とも約束をしていたのですが、ポーランド人を始め沢山の外人の猛攻にあい、結局のみ過ぎて皆様に迷惑をかけてしまっはめになりました。武市様に見捨てられるはめになりました。

九月十六・十七日／七・八日目

全てのイベントが終わり日本に帰るときがやってきました。こうして世界大会を振り返ると試合面ではやはり世界の壁は厚いと思いました。だが決してその壁は破れないものではなく、来年までの一年間の過ごし方次第では世界一も狙えそうです。私達日本人の武器である「技術」は世界一だといふ事も確信できました。私自身今年で大学は卒業です。ですがジュニアは二十三歳までなのであと二年も世界に行くチャンスがあります。来年こそは「絶対に上位入賞を目標に頑張ります!!!」丸二日間かけて岡山に帰るのはかなり辛かったです。

（法学科 四年 岡本孝義）

クラブめぐり

ワンゲル部

大自然に

いだかれて

今回はワンダーフォーゲル部とは「何をやるサークル」が説明するとともに、わたしたちのサークルが「他のサークルに負けない特質」を「自然の中で体験できる事」を知っていたきたかと思いきや、



仲間達との食事。ホッとするとときだ

まず始めにワンダーフォーゲル部が行う主な活動内容を説明します。ワンゲ



奈良八経ヶ岳で合宿登山

ル部とは「山登り等をするサークル」です。練習は週三回で月・水・金曜日の四時限目終了後に第二学生会館三階の部屋に集合。商大付近の山を登り、少しずつ足腰を慣らし、そして休日には仲間とともに計画した県外合宿登山を楽しみます。ここでは今まで練習で鍛えた「精神力」が試されます。どれだけ余裕を持って山を楽しむことができるか、山頂に辿りつくまで苦しみをかかち合い協力をする事ができるかが登山をする上で一番重要なことであり、わたしたちの目標となります。

次に「ワンダーフォーゲル部でしか味わうことのできないこと」について説明したいと思います。それは練習をしている時に自分の心に響いける甘い考えを跳ね返す、その諦めない行動がいつかは宝石のように輝いて自分の強い味方になります。これはどのサークルで活動しても共通のことです。それが、ワンゲル部ならば山頂に立った瞬間、三百六十度見渡す絶景がこれまで仲間とともに登ってきた苦しい道程を、心の底から叫びたくなるほどの感動とともに癒してくれるのです。良い思い出になります。

それから下山に至るまでに、地上では体験できないこと、例えば合宿で仲間と協力して作った食事、その材料や一切の登山用具や生活用品を背負い疲れ果てた体を包み込むテント、朝皆で早起きして空を見ると星が観察できたり、とても空気が澄み切っていることにも驚かされます。山へ登りに来なければ体験することのできない事がまだ他にたくさん隠れていることでしょう。

このように大自然と寝食を共にすれば、今まで味わったことのない充実感を得られることは間違いありません。さあ、山へ登りに行きましょう!

（商学科一年 部長 藤川陽介）

先生や友人と 忘れられない瞬間を！



平成十四年七月三十日（火）、太陽の光が眩しい盛夏に「留学生学外研修旅行」に参加しました。今回の研修旅行が倉敷市の「川崎水島製鉄所」「円通寺」と世界的に有名な「瀬戸大橋」を訪れ、日本の工業技術、文化歴史及び環境保護について認識と理解を深め、私達の留学生活にとって充実した一日を過ごすことができました。

商大のキャンパス入口に集合した六十五名の留学生と十名の教職員がバス二台に分乗して八時半出発しました。

最初に訪れたのは「川崎製鉄所水島」です。人間の鉄鋼に対する需要の多様化したがつて、鉄鋼を製造するのは最も先端的な技術と品質が大切です。水島製鉄所は、一〇〇万平方メートルの敷地と先進な製鉄技術を持って、日本の産業を力強く支えて

留学生学外研修 わたしも、夢の架け橋に

川鉄 円通寺など訪問



程心馨さん

います。ビデオなどで川鉄水島の概要を学んだ後、製鉄所の方が詳しく紹介してくださりながら、私達は厚板製鉄の工場などを实地見学しました。自分の目で、〇〇〇mmぐらいの細長い鋼板になってきたのを見てとても感心しました。私達の人生も鉄鋼のように次々に打ち磨いているうちに成長してもっと充実したものになると思っています。

次に私達は「円通寺」を訪れました。そこで日本料理を食べたあと、地元ボランティアの方々の案内で見学しました。円通寺は良寛禅師が若き日々を修行した禅寺で、その円通寺を内包する円通寺公園内には詩碑や歌碑がたくさんあり、季節を問わず散策を楽しめます。良寛禅師の詩碑が日中両国の協同で建てられたと聞きました。日本の仏教は中国から伝えられたのです。そのため、日本と中国は同じ仏教・儒教の背景を持っています。良寛禅師は友好使節として中国と日本の文化を結びました。

最後の目的地は「瀬戸大橋」です。九年半の歳月と一兆一千億円の巨費を投じて、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋は「夢の架け橋」として世界的な注目を集めています。「瀬戸大橋」は備讃瀬戸に浮かぶ五つの島を六つの橋で結びます。「二階建て」で最長の南備瀬戸大橋は吊り橋としては世界五番目、道路・鉄道併用橋としては最も長いです。私達が着いた与島パーキングエリアには、与島橋の姿がはっきり見えます。その

時、物事の雄大さを心から感じてきました。最後、留学生の私達は先生と一緒にこの忘れられない瞬間を撮って大切にします。

今度の研修旅行はもう終わりましたが、帰る途中のバスの中では、みんなうれしそうに一日の見聞について話し合っていました。私は



人は誰でも海外旅行や国内旅行など異文化に接したときに、困ったことがあるのではないだろうか。そのとき、異文化を理解するために何が必要だろうか？

一つは言葉である。言葉は重要な言語交流の道具だ。日本人の曖昧な言い方で、私は外国人なのでよく勘違いしたことがあった。例えば「これはいいです」の意味は、「いいですよ」か、それとも「いいです」か？本当に理解できないか？言葉の微妙な差で意味が全然違うので、気をつけなければならぬ。中国には五十五の少数民族がい



地元ボランティアの案内で円通寺を巡る

中国から日本へ留学して日本の先進な科学技術と文化歴史及び管理経験をマスターして、自らが長い橋となり良寛禅師のように中日両国の交流にわずかな力を尽くしたいと思っています。

法学科 一年
程心馨

(ティ シンシン)

勇気を出して、真心を込めて

商学科 1年 朱小霞

人は誰でも海外旅行や国内旅行など異文化に接したときに、困ったことがあるのではないだろうか。そのとき、異文化を理解するために何が必要だろうか？

一つは言葉である。言葉は重要な言語交流の道具だ。日本人の曖昧な言い方で、私は外国人なのでよく勘違いしたことがあった。例えば「これはいいです」の意味は、「いいですよ」か、それとも「いいです」か？本当に理解できないか？言葉の微妙な差で意味が全然違うので、気をつけなければならぬ。中国には五十五の少数民族がい

も一つは異文化を尊敬することである。海外と国内の名所を訪ねるときに、風俗習慣が違い理解困難なこと、異文化を蔑視しがちである。一度日本三景の一つ「天橋立」という名所を訪ねたが、人々はどうしてお尻を上げて、下を向いてみるのかよく分からなかった。みんなは変だと思ったがとなりの案内図を見ると、昔から流れてきた歴史があった。その時代背景を理解すれば、蔑視しないですむ。

人々は異文化に接したときには、避けようと感じられることにはぶつかっても勇気を出して、真心を込めて異文化の背景を汲み取って当地の人々と交流すれば、理解することができると思う。

(シュ・ショウカ)

イニシアチブ 開店一周年を 迎えて

奉還町商店街にチャレンジショップとしてオープンした雑貨屋「Initiative」も今年九月一日で満一歳を迎えることができました。それを記念して、八月三十一日から九月三日までの四日間に渡り、「周年特価セール」を催し、購入いただいたお客様には粗品の提供を実施しました。おかげさまで無事終了し、今年はクリスマスセールや、新春セール、バレンタインセールの実施につなげていこうと思いません。



また、夏休み中は本学のオープンキャンパスに出席する機会を与えていただき、県内外から来学した高校生にお店の紹介をすることができました。この中から半年後、共に店舗経営に携ってくださる学生が現れることを願っています。

最後になりましたが、応援してくださる教職員の皆様方には深く感謝しております。わずか十一人の学生が授業と並行で店舗を運営していくには厳しいものがありますが、「Initiative」はこれからも精一杯頑張ります!!

営業時間は十時から十九時まで（水曜定休）です。ぜひお立ち寄りください。

（店長 商学科四年 稲垣貴彦）

また、夏休み中は本学のオープンキャンパスに出席する機会を与えていただき、県内外から来学した高校生にお店の紹介をすることができました。この中から半年後、共に店舗経営に携ってくださる学生が現れることを願っています。

最後になりましたが、応援してくださる教職員の皆様方には深く感謝しております。わずか十一人の学生が授業と並行で店舗を運営していくには厳しいものがありますが、「Initiative」はこれからも精一杯頑張ります!!

営業時間は十時から十九時まで（水曜定休）です。ぜひお立ち寄りください。

（店長 商学科四年 稲垣貴彦）

インターンシップに参加して



坂手 康恵さん

もうすぐ社会人 ほんの少し社会を知りました

私がインターンシップに参加したきっかけは、ゼミの講義で就職課の方に、インターンシップについての説明を聞いたからです。その頃私は就職について、どうしようか悩んでいたのですが、実際に企業での仕事の体験をさせていただけるといふシステムにとっても興味を持ちました。

私を受け入れてくださった企業はホテルグランヴィア岡山でした。岡山駅の隣に大きく聳え立つ、あ

のホテルです。実習は約十日間の日程で、各課の仕事内容や役割など様々なお話を聞いたり、実習を行ったりしました。

まず、接客サービスの基本として、身だしなみ、態度、言葉遣い、電話応対など教えていただきました。これは、ホテル業に限らず、どこへいっても必要とされることでした。又、これから就職活動を行うっていくうえで、知っておくこと自身大きくなれるのではないかと思うことが多くありました。

そして二日目は、社長のお話を聞く

ことができました。社長は、「考える力」を育てることが大切だとおっしゃっていました。「仕事とは課題を解決することであり、この課題を解決する為は何をし、どう考えるか。どのような道の人でも、問題の根源は何なのかを考えている人は、その道のベテランになっているのだ。」とおっしゃっていました。私は、何よりもお話をされている社長の雰囲気、今まで自分がやってきたことに対して誇りを持っているのだろつと感じました。そして、それは考えることを沢山されてきたからだと思います。

また、宿泊課の研修では、客室清掃をさせていただきました。お客様がお客様を出られたあとの清掃です。バス、トイレ、洗面台など、髪の毛一本も残さないように洗い流し、水気がないように水分はタオルですべて拭き取りました。ベッドメイキングも、シワひとつないよう仕上げました。お客様が気持ちよくお泊まりいただけるための心掛けを、体を通じて感じました。

私はインターンシップに参加して、働くことを今までもより身近に感じる事ができました。私はもうすぐ社会に出ます。その前に、アルバイトなどではなく、インターンシップというかたちで、ほんの少しだけですが社会を知ることができたことを嬉しく思います。小さな新入社員研修のような受け入れ方をしていただけからです。

まだ、インターンシップに参加されていないみなさんは、一度参加されてみてはいかがでしょうか？きっと何か自分にとってプラスになることが見つかると思います。

（商学科 四年 坂手康恵）

学会

学生懸賞論文の募集

今年度も岡山商科大学学会では懸賞論文を募集します。優秀者には表彰状ならびに副賞が授与されます。ふるってご応募ください。

締切 / 平成14年11月15日(金)

提出場所 / 図書館2階カウンター

その他 / テーマ・様式は自由

第2回献血

あなたの血液誰かのために

恒例の「学友会献血」が行われます。あなたのささやかな善意を、誰かのために役立ててみませんか？

日時 / 10月9日(水)

10:00 ~ 11:00

12:00 ~ 16:30

場所 / 学生会館前

2年次生が対象

単位の追加登録が可能に

2年次で、前期終了した時点で、後期履修登録している科目を全科目単位認定しても56単位に満たない学生は、上限6単位（語学を除く）まで追加履修が認められます。登録締切は10月8日（火）。詳細は教務課まで。